

令和元年度 学校評価報告書 (計画段階 ・ 実施段階)
いずれかを○で囲む

学校名	福岡市立福岡高等学校		学校経営方針・学校教育方針	今年度の重点目標	評価(総合)	
学校長	ふりがな	たにもと のぼる	(1) 学力と体力の修練に努め、その充実・向上を図る。 (2) 礼節をわきまさせ、基本的生活習慣を身につけさせる。 (3) 責任感と協調性をもち、勤労を専ら精神を養わせる。 (4) 個性を生かして創造性を発揮させ、適性と能力に応じた進路指導の推進を図る。 (5) 自主的・自発的な精神で生活を営む態度を養うよう努めさせる。 (6) 人としての生き方なり方を追究させることを通じて、人権尊重の意識を高め、差別をなくす力を育てる。 (7) コミュニケーション能力を高め、多種多様な情報を適切に収集・処理・発信できる能力を育てる。	(1) 知の学校運営と「希望進路の実現と部活動の活性化」 校長を中心に調和のとれた運営を行うとともに、生徒の進路実現を最重点にし、進学では、難関私立(西南学院大を含む)200人以上を目標に、就職では、内定率100%を目標に挑戦し、全教師で努力を継続する。また、部活動の活性化を推進する。(体制、実績、活動内容等) (2) 授業改善・授業改革の推進と若手教師の育成 授業改善工夫につながる校内研修会を計画的・組織的に取り組む。また、市立高校の将来を担う若手教師を、ひとりの社会人、ひとりの教師として全教職員で支援し育てる。 (3) キャリア教育の充実 総合学校高として「産業社会と人間」を中心に、ジュニア・アチーブメント・プログラム(ジョブシャドウ・SCP・ミース)に全教職員で取り組む。 (4) 組織的な学校運営と危機管理の徹底 「すべては生徒のために」を常に意識し、教職員のもっている力を集結して、各部・各教科等が連携し、組織的に生徒の指導や校務運営にあたりるとともに、日常的に危機意識をもち、起こりうることを想定しながら教育活動を行う。 (5) 協賛改革サードステージ～第2章～の推進 3の進学支援プログラム(矢)と3つのオプション(羽)への新たな取組み	学校自己評価 A	学校関係者評価 A
	氏名	谷本 昇				
校長本校在任年数	4年					
学校関係者 評価委員会 委員長	ふりがな	かわぐち みよじ				
	氏名	川口 三代次				
昨年度の成果と課題	(1) 学習意欲を喚起する授業の指導工夫が必要である。教える内容のマイナーチェンジでなく、教え方のモデルチェンジをもっと求めていく必要がある。 (2) 「コミ学」の取組を通して更に関係性の質を高めていくことが、最後まで一体感をもち、一人一人のやり抜く力の育成につながる進路指導になると思われる。 (3) 部活動指導と教科指導の一体化が福岡全体の教育活動の相互作用を高めることにつながると思われる。					

評価項目	目標及び具体的な方策等		学校自己評価	取組状況・成果・課題	学校関係者評価	学校関係者評価委員会からの意見等	今後に向けての方針・改善点
	目標	具体的方策					
教育課程・学習指導	主体的・対話的で深い学びが得られるような授業改善を図り、生徒の学習意欲を高めるとともに、個々の生徒の進路実現を目指す。	授業改善のために授業評価アンケートの工夫改善を図るとともに、教科内の研修活動につながる工夫を図る。	A	今年度より、授業評価アンケートの実施方法を改善した。具体的には、教員あたりの実施クラスを減少させ、教員の負担軽減をはかり、全員の教員に提出を求めた。また、集計作業の軽減のため、様式を1つにした。この結果、提出率が90%後半になり、全職員に浸透できたとする。A事業にも、授業アンケートを活用することで、より充実するものになった。教科主任会で、観点別評価等懸案事項を検討することができた。	A	・授業評価アンケートの提出率が90%後半は素晴らしい。授業評価アンケートをもとに、授業の改善・工夫がなされていると考える。生徒への授業評価の結果は、必ずフィードバックをしてほしい。 ・A事業を参観させていただいたが、熱心に指導される先生が多いことに感心した。	・今年度改善した、授業アンケート実施方法をより浸透させていきたい。また、その結果を、今年度はA事業にフィードバックさせたが、次年度はそれにかかわる研修等にフィードバックさせて、授業改善につなげていきたい。 ・改革検討委員会、教科主任会を中心に、観点別評価の導入に向けて、意欲的検討していきたい。 ・推薦入学者については、推薦入学者カルテを活用するとともに、入学後の定期的な面談等を通して、支援していきたい。
	・教育課程の検証と改善を図る。 ・推薦入試の改善を図る。	新しいプログラムをより充実させるような取組みを各教科・各学年との連携を密に行う。	A				
	規範意識の高い生徒を育てる。	明確な基準を持って風紀指導の徹底を図り、主体的にルールやマナーを守ることの必要性を学び、理解させる。自転車通学者に対し、駐輪、交通マナーの徹底した指導を行い、主体的に行動できるようにさせる。	A				
	基本的な生活習慣の確立を図る。	時間の大切さを自ら考え、先を見通した行動ができるように、5分前行動ができる習慣を身につけさせる。	A				
生徒指導	「福岡高校いじめ防止基本方針」に基づき、総合的かつ効果的に推進する。	定例の(月1回)「いじめ防止対策委員会」とその事務局会において、未然防止、早期発見、早期解決等にあたる。	A	風紀検査を年3回に減らし、日頃の指導を心がけるように変更したが、風紀の乱れもなく主体的に行動し、落ち着いた生活を送っている。自転車通学者のマナーについて、全体指導と個別指導を継続指導に行ってきたが、1年生の事故が多く、苦情は部活動休業日の火曜日が多いので、下校指導を継続していく。	A	・校内における生徒の風紀や挨拶は良いと感じる。しかし、校外での指導は何処で線引きされているのかと思う。 ・通学路の道路が狭く、アップダウンがあるのでやむを得ないが、道路一杯に広がって走行しているのを見かけるので、自転車通学の交通マナーについては、継続的な指導をしてほしい。 ・花畑校区は、南区で2番目に高齢化が進んでおり、貴校の通学路には小学校もある。高齢者や児童の安全を守るためには交通マナーの指導を入学時からしっかりとしてほしい。	・風紀に関しては非常に落ち着いている。しかし、自転車通学者のマナーについて、事故も相変わらず多く、苦情もある。その都度、全体指導、個別指導、登下校指導を行っているが、生徒が自ら考えることができるよう取り組みを考える。生徒会を活用する、登下校マナーマップの作成など進めていきたい。 ・全体的に挨拶はできているが、もっと来客者への挨拶が積極的にできるように指導していく。また、学校内での行動や頑張り、地域社会でも活かすことが、自分の成長や学校の活性化につながることを理解させる指導をしていきたい。 ・定例の「いじめ防止対策委員会」とその事務局会において、生徒、学年、学校全体の情報を共有することが密にできているため、対応が丁寧で素早くできている。チームとして取り組める雰囲気づくりを大切に、今後も継続していきたい。
	「福岡高校いじめ防止基本方針」に基づき、総合的かつ効果的に推進する。	各部署、各教科、部活動顧問会等において、共通理解をもって指導し、認め合い、支えあう人間関係づくりを推進する。	A				
	生徒一人一人の進路保障を目指し、適切な指導・助言を行う。	本年度からの新しい形態での課外や補習を計画的に準備して、円滑に進める。	B				
	学年に応じた情報の提供や支援を行う。	産業界の人間や総合学習の内容を深化し、生徒が主体的に進路目標を設定できるよう、指導・助言を行う。	A				
進路指導	学年に応じた情報の提供や支援を行う。	学年部と進路指導課の連携を強化し、進路指導課からの情報発信を積極的に行う。	B	課外については、実施形態を大幅に変更し、課外費徴収の方法なども含めて改善を進めることができた。サテライト講座などの運営において、次年度への課題が残った。「産業社会と人間」では、探究活動にもつながる新しい取り組みを実施するなど、内容を深化することができた。	A	・キャリア教育については、講演会や面談等のきめ細かな指導によって、一定の評価と成果を得ているが、高大連携を図り、さらに高い目標をめざした取組を充実させていくことで、全体のレベルアップにつなげていく必要がある。また、大学入試改革の動向を掴み、的確に対応していくとともに、生徒や保護者に積極的に情報を発信していく必要がある。 ・授業等において、積極的に図書館を活用する工夫をすることで、優れた文章を獲得し、知識と教養を深め、思考力・判断力・表現力の育成を図ってほしい。	・課外や補習については、本年度の形態をベースに学年や教科と連携して、次年度の実施を計画したい。 ・次年度はサテライト講座とスタディサポートを廃止し、スタディサプリを導入するので、有効に活用できるよう研究したい。 ・進路部と各学年を繋ぐものとして、キャリア教育を位置づけ、キャリアパスポートの円滑な導入を図りたい。また、総合的探究の時間をの本格実施に向け、探究活動を充実させるよう努力したい。
	基本的な図書館利用技術を身につけさせ、主体的な学習活動ができるようにさせる。図書館の有効利用を促進する。	図書館の利用を活性化し環境の整備を進め、読書指導の充実を図る。昨年度に引き続き、学級に出張貸出を行う。	A				
	アクティブラーナーの育成 主体的・協働的に深く学び続ける教員・生徒を目指して	蔵書数の増加(学校図書館の標準蔵書数)を目指す。選定に関しては、授業等での利用促進のため、専門図書書を優先的に整備する。	A				
	主体性の育成につながるキャリア教育の推進	希望進路実現のための柔軟なカリキュラム検討・実施及び新学習指導要領のカリキュラムの検討「福岡サードステージ第2章(3本の矢)」を進める。	A				
学校改革	主体性の育成につながるキャリア教育の推進	異文化・語学体験プログラムの検討・実施「福岡サードステージ第2章(3つの羽)の検討・実施	A	新学習指導要領に伴う教育課程の検討について始めたばかりである。学校の基本方針を示し具体的なカリキュラムについては今後検討を進めていく。 「サードステージ第2章(3本の矢)」については、課題があれば対応策を検討し、次年度へつなげる。「中学校、大学の交流」(150回)、「部活動生集会」(1回)実施した。	A	・サードステージ第2章についての取組みは、意欲的で、その成果が素晴らしい。充実感を感じる。 ・SDG sは全世界共通の課題で、企業でも取り組んでいる内容です。先進的に取組んでいることに期待感を感じている。	・福岡サードステージ第2章の3本の矢については、円滑に進行することができるよう改善点があれば、柔軟に対応して解決を図っていく。特にスポーツ・文化プログラムの生徒に対する進路保障ができるようなシステムの充実を図ってほしい。また、3つの羽のうち海外異文化体験研修は新型コロナウイルスにより中止となってしまったが、引き続き実施していく。 ・部活動生集会を活性化させていきたい。 ・コミュニケーション学習プログラムには振り返りのための定型レポートを作成するなどの学習を設定し、表現力を高める取り組みを行いたい。 ・SDG sの取り組みは、次年度は対象生徒を広げ、全校的な取組となるように検討を重ねていきたい。 ・キャリア教育の推進について、学校として一体となって取り組めるように引き続き取り組んでいきたい。
	アクティブラーナーの育成 主体的・協働的に深く学び続ける教員・生徒を目指して	部活動活性化に伴う積極的発信「中学校、大学との交流」「部活動集会」	B				
	主体性の育成につながるキャリア教育の推進	異文化・語学体験プログラムの検討・実施「福岡サードステージ第2章(3つの羽)の検討・実施	A				
	アクティブラーナーの育成 主体的・協働的に深く学び続ける教員・生徒を目指して	ジュニア・アチーブメント教育プログラムの効果的活用と体系的なコミュニケーション学習の実施「SCPの活動充実」「SCP活動積極的発信」「コミディ」「コミキャン」	A				
特活指導	集団活動を通して、自主的・実践的な態度を育てる。	体育祭・文化祭などの行事を、生徒会が中心となり、自主的な企画・運営ができるように支援する。	A	生徒会総務が中心となり、各学校行事の運営を生徒主体で行うことができた。文化祭は各クラスの委員が企画・運営に尽力する姿が印象的であった。体育祭では、ブロックのリーダーたちが日に成長し、全体をまとめていく様子が見られた。	A	・部活動が活発で喜ばしい限りである。文武両道を通して、人気の学校になっている。また、生徒会活動、体育祭、文化祭は、生徒の主体的な頑張りや素晴らしいものとなっていました。	・年度末を迎え、本格的に120周年行事の準備が始まっていく。生徒会を中心に各クラス委員、部活動等が一体となって行事運営にあたるよう指導・支援を行っていく必要がある。また、各部署とも連携を取り、職員間でも情報共有を進めていく。 ・生徒のより活発的・効率的な活動を進めていくとともに、職員の働き方改革を推し進めていくという意味でも活動時間の短縮・活動内容の工夫改善を図る。完全下校時刻を早め、そのなかでも今以上の実績を上げていけるよう研修や研究に尽力していく。
	体育部・文化部の活動の更なる活性化を目指す。	定期的に部活動顧問会議を開き、規律ある一貫した指導ができるよう意見交換、情報共有等に努める。	B				
	定期的な部活動顧問会議を開き、規律ある一貫した指導ができるよう意見交換、情報共有等に努める。	部活動加入率90%以上を目指し、部活動生が学校の真のリーダーとなるように研修を行い育成する。	B				
	定期的な部活動顧問会議を開き、規律ある一貫した指導ができるよう意見交換、情報共有等に努める。	部活動加入率90%以上を目指し、部活動生が学校の真のリーダーとなるように研修を行い育成する。	B				

保健 環境 美化	基本的な生活習慣を確立し、心身ともに健康的な学校生活を送ることができる力を育成する。	毎朝健康チェックを実施する。出席状況に変化がある場合には、その原因を把握し、いじめ防止対策委員会等を通じて学校生活を円滑に送れるよう支援していく。	B	A	毎朝健康チェックを行い欠席や遅刻が多い生徒の把握をしている。いじめ防止対策事務局会の中でも支援策を検討し担任やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携した支援ができています。特に今年度から配置されたSSWには様々な面で協力して頂いている。また、各研修については今後も計画的、継続的に行い不測の事態に備える体制を作っていくたい。	A	・SSWが入るケースについては、必要に応じて中学校との連携も進めてほしい。	・今年度からSSWが配置となり、今まで学校が関わることができなかった部分（家庭の経済問題など）にも支援ができるようになった。SSWとSC、学校が協力しながら生徒の問題に取り組む体制を維持していく中で今後は中学校や他の関係機関と連携して問題解決にあたることも視野に入れていきたい。
	身の回りの整理整頓をはじめ、校舎内外の環境美化に対する意識を高め、心豊かに学校生活を送ることができるよう支援する。	毎日の清掃活動を確実に行う中で、生徒会や福祉委員を中心にリサイクル活動を推進する。	A	A	PTAや地域の方々と連携し、トイレ一斉清掃や花いっぱい運動を円滑に実施できた。参加者はそれぞれ、249名、72名に達し特にトイレ一斉清掃では日頃できない箇所まで念入りに清掃できた。日常の清掃では生徒会福祉委員が中心となり、清掃及びゴミ減量、リサイクル活動への意識を高めており、今後も推進していきたい。		・花いっぱい運動に参加、協力していただき感謝している。（町内会）	・職員や生徒にゴミ分別のルールを周知することでゴミの減量やリサイクルが浸透してきているので、今後も一層の減量を目指す。本年度より清掃時間に音楽を流したが清掃に対する良い動機付けとなったので継続していく予定である。 ・PTAや地域の方々と清掃や環境美化活動を行うことは生徒にとっても良い刺激となっている。更なる充実に努めたい。
		PTAや地域の方々と連携し、校内美化の一環としてトイレ一斉掃除や花いっぱい運動を実施する。	A	A				
1学 年	基本的な生活習慣を確立するとともに、自ら意欲的に学習に取り組ませる。	「産業社会と人間」の授業やホームルーム活動を通じて、自己の将来に向けて目標設定をさせ、意欲的に学習に取り組む態度を育成する。	A	A	入学当初は新生活への順応に時間を要した生徒もいたが、文化祭を機に活気が出てきた。日々の学習態度も落ち着いている。11月には2年次コース選択があり、それぞれのコースが決定した。課外が希望制となり、自らの希望進路に応じた学習スタイルを考えさせる契機となった。今後はコースの特性や資格取得も考慮に入れ、進路実現への意識をさらに高めていきたい。	A	・福翔生としての学習・生活の基礎・基本の確立に取り組んでいる。高校ギャップを抱える生徒や文武両道に悩む生徒に対しては、しっかりと対応してほしい。	・福翔生として生活の基礎を確立するという目標に対しては、「時を守る」「挨拶をする」「気遣いをする」という3点に焦点を絞り指導を行ってきた。生活面では成果を実感する反面、学習面については課題が残る。自主的に学習に向かう生徒を育成することが、次年度の学習に関する目標となるだろう。2年次はコースに分かれたクラス編成となるため、コースやクラスにおいて学習の目的意識を統一させなければならない。
	学校行事に積極的に参加し、集団への帰属意識を高めさせる。	本校の伝統や校風を理解させ、高校生として相応しい態度を育成する。	A	A	学年スローガン「HAVE A GO」挑戦しなければ成長はない」の元、様々な取り組みに対して積極的な参加を促してきた。日々の生活や学校行事により、集団作りは概ね良好だと言える。特に文化祭ではモザイクアート企画や学年合唱は、集団への帰属意識を高める上で効果的であった。その効果が体育祭にも波及したと実感している。		・次年度の学校行事は、2度目の参加のため、より目的意識を持って臨まなければならない。文化祭、体育祭、研修旅行、それぞれ何を指す行事なのか、丁寧に指導していきたい。その上で生徒が主体的に活動できるようリーダー教育が根気強く求められる。	
		各行事の意義を理解させ、積極的に参加する態度を促し、集団への帰属意識を高めていく指導を行う。また、安心して過ごすことのできる環境づくりに努める。	A	A				
2学 年	基本的な生活習慣の確立とともに、落ち着いた学校生活のもと、文武両道に努めさせる。	5分前行動。挨拶、言葉遣いなどの指導を徹底し、文武両道に努める環境を作る。	B	B	時間の管理は、概ねできているが登校時間については、余裕がない生徒が10名程度いる。年間を通して時間を守ることや時間にゆとりをもつことの重要性を言い聞かせ指導してきたが、指導の効果が現れることは残りながらもなかった。指導不足とは感じてはならず手詰まりの状態である。今後も指導は継続していくが、別の何らかの手立てを模索していく必要がある。現時点では無策である。	A	・5分前行動、挨拶、言葉遣い等、規則正しい生活を送るよう指導を継続している。	・教科で学ぶこと以外に学校内で学ぶことについては限りがあるが、少なくとも学校内で学んだことは、学校外で発揮できるよう指導してきたが、指導の丁寧さ・粘り強さ・根気強さの欠如によって求めているレベルに達していない。学校で学ぶ意義について時間をかけて丁寧に言い聞かせて納得感を持って実践できるよう指導していく。
	学校行事に積極的に参加し、集団への所属意識を高めさせる。	各行事において、一人ひとりに協力のあり方と重要性を理解させ、集団への所属意識を高めることができるようにする。	A	A	研修旅行については、自立した行動ができるよう指導してきたが、なかなか多くを求めることができないようである。少なくとも学校で学んだことを学校外につなげることができるように指導し、学校外で学んだことを学校で活かすことができるように指導し、成長したことを実感させてあげたい。		・研修旅行では、学校外での自立した行動に期待をしていたが、多くを求めることができなかった。公共の場での言動の仕方ははじめホテルの従業員の方にあいさつをするところからここまで難しいとは思えないが、現実には現実として受け止め不本意ながら設定を変えて指導していかざるを得ない。	
		研修旅行の意義を理解させ、積極的に参加する態度を促し、自立した行動ができ、成長した姿や態度を実感させる。	A	A				
3学 年	進路実現のために適切な進路指導を行う。	三者面談をはじめ、個人面談を十分に実施し、模試データの分析や志望校決定に関して、学年全体で細やかな進路指導を行う。	A	A	各担任が二者面談・三者面談を計画的に行い、生徒・保護者の希望に添う進路指導を行うことができた。今年度は従来のセンター試験最後の年ということで、入試難化が取り沙汰されたり、来年度の試験が大幅に変更されたりと進路指導にかなり苦戦した。先の見えない中で各担任がよく研究し、生徒の実情に合わせた進路指導ができた。	A	・他校の高校生の様子から、ルール・マナーの徹底が出来てなかったり、自主性がやや欠ける特徴を感じる。しかし、福翔生は自覚と誇りをもって、学校生活に主体的に取組み、文化祭や体育祭では3年生の頑張りを感じた。	・各担任が面談を通して生徒の適性を見極め、AO入試や推薦入試を活用し、合格率を上げることができた。総合学科らしい多様性に富んだ進路選択が出来た一方、成績上位者に大学進学の意味を充分伝えられなかったことに課題が残った。一般企業の就職は順調であったが、果敢受験では苦戦を強いられた。適性を見極めさせることも必要ではないかと思われる。
	最終学年としての自覚を促し、学校行事に積極的に参加する姿勢を整えさせ、自律的に動く集団作りをさせる。	文化祭や体育祭をはじめ、行事に積極的に参加する態度を促し、達成感や成就感を感じさせる。	A	A	非常に素直で、常識的な行動をする118回生であったが、自主性にやや欠けるところが悩みの種であった。しかし、今年度は文化祭で全てのクラスがゲームなどのイベントを計画し、実行したことで計画性や団結力が養えたと思われる。体育祭も下級生を積極的に指導し、自分たちなりの特色を発揮しようとして努力していた。教員の手を離れ、自立しようとしていた態度が確立できた。		・面接等を計画的に実施し、生徒の進路目標を明確化させ、意欲を高めるなど、丁寧な指導・支援が出来ている。入試制度の大幅な変更は受験生にとっては厳し状況があると思われるが、最後まであきらめずに頑張してほしい。	・部活動終了後の規範意識の維持をどうするかが今後の課題である。学年だけではなく、職員全体で授業の挨拶のやり直しなどに取り組む必要がある。自主性は役割を与えられ、自由度を上げることで自然と身に付くところもあり、生徒を信頼し、任せる勇気はむしろ職員の方に求められると思われる。
		リーダーを中心に設定した高い目標を共有させ、目的を達成するに相応しい自発的自律的な行動は何かを各人に考えさせることで、集団の力を最大限発揮することができるようにする。	B	A				
人権 教育	本校が抱える人権に関する諸課題に対応する職員研修会を企画し、人権にやさしい学校を創造する取り組みを推進する。	特設人権教育の指導内容と方法を検証し、本校の抱える人権に関する諸課題に対応するよう改善を図っていく。	A	A	特設人権学習については、例年通り、1年次は身近な差別、2年次は部落差別、3年次は、就職差別と結婚差別を実施した。校内職員研修は、ここ数年頻発している（1年次生）「差別事象」（「ガイジ」発言等）についての研修を実施した。	A	・3年間を見通した人権学習の充実を図り、計画的に実施されている。また、全ての教育活動の中で人権教育が推進されていると思われる。「ガイジ」発言など、相手を傷つける言葉の指導では、中学校段階における人権教育との連携が必要である。	・校内研修会や市立高校進路保障研究会、外部団体の研修会等において、学び、あらゆる人権問題に対する人権感覚を育み、人権が尊重される環境づくりを行う。また、中学校との連携について、研修会・研究会等の実施が可能か研究をはじめたいと考える。
	教育相談活動の充実をはかり、実効的な活動を推進する。	気になる生徒の早期把握と情報共有化を推進し、SC、SSWの協力・助言を受け、不登校・休学・中途退学の生徒の減少をはかる。	A	A	不登校傾向の生徒への対応を効果的にするため、SC、SSWを交えて、毎週、情報共有のための会議を開いた。SCの助言・面談及び、本年度より配置されたSSWの助言・協働に多大な助力をいただいた。通級指導についても、円滑かつ効果的に行った。また、職員会議等に於いても「気になる生徒」についての周知徹底・情報交換に努めた。		・今年度においても管理職や教諭、養護教諭、SCと情報を共有することで、校内の不登校や様々な問題に対しても教諭が一人で悩みを抱え込むことなく、素早く対応することができた。また、本年度より配置されたSSWとの協働や特別支援教育通級指導を効果的かつ円滑に実施し、更なる生徒への支援を目指す。	
		特別支援教育について全教職員で共通理解し、通級指導を円滑に行い、教育活動の中で効果的に実践していく。	A	A				

※ 学校自己評価は、5段階評価(A…目標を大幅に上回る達成度、B…目標を上回る達成度、C…目標どおりの達成度、D…目標を下回る達成度、E…目標を大幅に下回る達成度)で成果や取り組み状況等について記入すること。

※ 学校関係者評価は、学校自己評価について5段階評価(A～E)で評価すること。